



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

2020年6月28日 年間第十三主日A年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：列王記下 4章 8－11、14－16 a節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 6章 3-4、8－11節

福音朗読：マタイによる福音書 10章 37-42節

## 今日のテーマ：「報い」と日常の中で働く神のことば

今日の三つの朗読から響いてくる最初のテーマは「報い」です。それも神からの「報い」です。第一朗読ではある「裕福な婦人」(王下4章8節)が、神の人エリシャをもてなします。そしてエリシャのために屋上に部屋をつくります。エリシャは、婦人の行為をねぎらって「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱いている」(16節a)と告げました。婦人のエリシャへの尊敬は報いられたのです。第二朗読では洗礼によってキリストと共に死んだ(ロマ6章8節参照)キリスト者は、「キリスト・イエスに結ばれて」(11節)、キリストのうちに生きようになります。洗礼の報いは、キリストと共に新しいのちを歩んでいくことです。福音朗読では「ふさわしくない」が三回、前半で繰り返されて(マタイ10章37,38節参照)、それに応答するかのようにふさわしい者には「報い」が与えられると三回繰り返されます(41,42節参照)。預言者と同じ報い、正しい者と同じ報いを受けるのであれば、弟子に水を飲ませて受け入れる人は、弟子たちと同じ報いを受けるようになるのでしょう。

第一朗読で預言者エリシャは日常生活の中で困り、悲しんでいる「裕福な婦人」に「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱いている」と神のことばを告げます。そして、そのことばは実現しました。今日の福音の最後に「預言者」、「正しい人」、「この小さな者」とはイエスさまのお弟子さんたちを指しています。お弟子さんとは神のことばを語る「預言者」であり、神のことばを生きる「正しい人」であり、神のことばに頼らなければ生きていけない「小さな者」なのです。そんなお弟子さんたちにお水の

ばい の 杯でも飲ませて受け入れる人は、イエスさまを受け入れ、イエスさまをおつかわしになつた父なる神さまを受け入れるのです。「預言者」は日常のなに生活の中に神のこばを語りかけます。たった一杯の水を通して、神のこばはその人の中に入っていくのでしょうか。こうして第二朗読にあるようにイエスさまに結ばれて(ロマ6章11節参照)、「新しい命を生きる」(4節参照)ようになるのです。

## 今週の聖句

わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない(マタ10章37節)。

「ふさわしくない」の「ふさわしい」はギリシア語で、アクシオスといいます。はかりと関係があることばで、天秤にかけた二つのものが釣り合っている状態を指します。『ルカによる福音書』では放蕩息子が家に帰ったとき「もう息子と呼ばれる資格はありません」と父親に語ります(ルカ15章19、21節)。ここでも、アクシオスが使われています。お父さんの子にはふさわしくないという息子の告白です。また、洗礼者ヨハネは「悔い改めにふさわしい実を結べ」(マタ3章8節)と呼びかけます。ここも、アクシオスです。天秤の片方の皿にはイエスさまが求めた悔い改めが乗っかり、もう片方の皿には人間の生き方の転換が乗っています。上手にバランスが取れていればよいのでしょうか、往々にして生き方の転換の皿が跳ね上がってしまいがちです。

イエスさまより家族を愛する者はイエスさまにふさわしくないと今日の福音は教えていますが、自然と生じる家族への愛情を無条件に捨てなさいと勧めているのではないでしょう。というのも、10章全体が差し迫った迫害を前提として弟子たちに語られた勧めの説教だからです。「弟子は師にまさるものではなく、僕は主人にまさるものではない。弟子は師のように、僕は主人のようになれば、それで十分である」(10章24-25節)がこの説教の中心主題です。イエスさまは弟子たちよりも前に迫害と十字架で苦しみました。そのイエスさまに倣う弟子たちは師であるイエスさまのようにあるべきで、しかも弟子たちの苦しみは師であるイエスさま以上のものではなく、師が共に担ってくれる苦しみなのです。

## 修道院からのお知らせ

今後の新型コロナウイルス感染の可能性と経路追跡のため、主日のミサにあずかる際には、聖堂入口のカードに日付と時間、お名前をお書きの上、箱に入れてください。お願いします。